

ノーリフトケア —介護者・対象者 共に やさしい起居・移乗技術

- 324-329

1

抱え上げないケアの必要性
—海外の取り組みと日本の現状

●保田淳子
- 330-335

2

介助者の腰痛や対象者の二次障害を引き起こすケアと、双方にとってやさしい移乗・ベッド上移動支援の実際

●眞藤英恵
- 336-340

3

リハビリテーション病院での取り組み
—ノーリフトケアの流れを医療側からつくる

●今村純平, 他
- 341-345

4

施設での取り組み

●久保貴行
- 347-350

5

ノーリフトケアが「あたりまえ」になるための在宅での取り組み

●福田裕子
- 351-355

6

地域での取り組み

●西川まり子



在宅や施設を問わず、ADLやQOLの向上、さらには活動や参加の促進、中・重度者の介護においてはとりわけ介護者の介護負担の軽減といった側面から、移乗・移動の介助は重要になってくる。力任せに持ち上げたりする動作は介護を受ける側にとって不安感や恐怖心を招いて筋の緊張が高まったり、拒否感が高まることによって活動性の低下、拘縮や褥瘡といった二次障害を招く。介護者にとっても腰痛などの原因にもなる。人間の身体の仕組みを考え、正常な動きに合わせた方法で介助することが、介護を受ける側、介護者双方にとってやさしい支援になる。本特集では「人にやさしい移乗・移動支援」の実践例・指導方法を紹介したい。

註)「ノーリフト」「ノーリフティングケア」は日本ノーリフト協会の登録商標です

企画担当 ● 下元佳子 (ナチュラルハートフルケアネットワーク代表, 理学療法士)